

「大津町観光ビジョン（案）」に関する意見募集の結果及び町の考え方について

大津町観光ビジョン（案）について、町民の皆様からのご意見を募集したところ、お声をお寄せいただきありがとうございました。

寄せられましたご意見とこれに対する町の考え方について、次のとおりお示しします。

1. 募集期間：令和8年6月26日（金）～令和8年7月24日（金）
2. ご意見の件数（人数）：16件（3人・1団体）

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
1	全体	RESAS の観光マップ>観光分析をしてみたところ、大津町の観光地として登録してあるのは、道の駅大津や日吉神社など 8 件ほどしかなかった。 本文中にあるゾロ像や江藤家住宅などもっと積極的に登録しておくことはできないか？	町には、ご指摘のとおり道の駅大津、ONE PIECE「ゾロ像」、江藤家住宅など、多様な資源が存在しており、本ビジョン案の「3.1 大津町観光の現状分析」においても、これらの多層的な地域資源を本町の強みとして位置付けております。 RESAS 等への観光資源の登録等につきましては、情報発信やプロモーション施策を検討していく中で、いただいたご意見も参考にしながら、関係機関と連携し整理を進めていきます。併せて、各資源の魅力をさらに高めるコンテンツづくりに取り組んでいきます。
2	P. 11	「町内での立ち寄り宿泊を町内での消費行動に連動されていない現状」というくだりは、私も同じ印象を持っている。 通過点としての利便性と消費行動とは、とらえようによっては相反するような印象もある。(移動に便利すぎるからここ大津で買わなくても良いかという感じ) この辺りは、観光資源としてのコンテンツ不足があるのではなかろうか？ 例えば、ゾロ像あたりを更に魅力的な場所にするために何ができるか？という観点でアイデアと取り組みが欲しいと感じた。	本町が抱える「通過交通を町内に滞留させ、滞在・宿泊を経済価値につなげる」という課題につきましては、本ビジョン案の「3.1 大津町観光の現状分析」や「4.1 ビジョンと達成指標」にも記載のとおり、最も重要なテーマの一つとして認識しております。ご指摘のように、その解決のためには観光資源を含めた滞在地としての魅力をさらに高め、思わず立ち寄りたくなるような仕掛け（コンテンツ）づくりが必要不可欠です。 ゾロ像周辺におきましては、現在、休日にキッチンカーを出店するなど、具体的ににぎわいづくりの工夫を始めています。観光施策を進めるにあたっては、いただいたご意見も参考にさせていただき、ゾロ像をはじめとする様々な地域資源を活かした、魅力あるコンテンツの創出に取り組んでいきます。

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
3	P. 17	滞在型の消費として、新たなイベントを作る必要を感じる。 例えば、はしご酒イベント、台湾飯/大津飯などのイベント、大津夜市の更なる魅力アップ…など また、町内の気楽な移動手段が見当たらないのもある気がする。 必ずしも自動車で来るとは限らないので、レンタサイクルなどの充実も必要だと感じる。	宿泊者等の町内消費を促すためには、地域ならではの食や体験、移動手段の充実が不可欠であり、本ビジョン案の「基本施策 2 宿泊・飲食・体験の連携強化」等においても、回遊性向上や滞在満足度を高める方針を掲げています。 今後の事業推進において、いただいたイベントのアイデアや、レンタサイクル等の気楽な移動手段の充実に関するご意見も参考にしながら、関係団体等と連携し、来訪者が滞在を楽しめる魅力的な仕組みづくりを推進していきます。
4	全体	町の重要な観光資源であるはずの「道の駅大津」についての言及がないことが気になりました。交通量の多い幹線道路である国道 57 号沿い・阿蘇方面観光の入り口（北側復旧道路・ミルクロードの起点）・中九州横断道の開通も予定と非常に好立地です。多い時には 1 万人以上の来訪がある観光施設は町内で他にないのではないかと思います。また、ツーリングの拠点にもなっておりバイク関連の施設としても無視できません。民間の運営主体ではありますが公共性が高い施設であるため、観光ビジョンを実現する上では、町が積極的に関与し、改修・リニューアルの可能性も視野に入れた集客・消費向上施策を実施する必要がかなり高いのではないのでしょうか。	道の駅大津は、阿蘇方面への玄関口として多くの方が訪れる、本町を代表する観光・交流拠点の一つです。ご指摘のとおり、本施設が果たす役割は本町の観光振興において非常に重要であることから、いただいたご意見を踏まえ、本ビジョンの「大津町観光の強み」のうち「多層的な地域資源」に、道の駅大津についての記載を追記（反映）しました。 具体的な施策を推進するにあたりまして、関係機関と連携しながら、同施設のさらなる活用と魅力向上に取り組んでいきます。
5	20 ページ 基本政策 1	ただ単に肥後大津駅の建替え（橋上駅化・自由通路）や駅前広場の整備のみにとどまってしまうと、アクセス線開通により通過する人に立ち寄ってもらうことは難しいと考えます。新しい駅舎やその周りに、観光客がわざわざ電車を降りて立ち寄るべき強い目的性をもつコンテンツをセットで用意しなければいけないと思います。また、「現代の宿場町」を前面に押し出すのであれば、少なくとも駅周辺の商業エリアと位置付ける範囲は徒歩で回れる環境の整備が必要であると考えます。	肥後大津駅周辺の整備につきましては、本ビジョン案の「基本施策 1」において、「現代の宿場町」の玄関口として、人が集まり使いやすく、町内消費につながる拠点を形成することとしています。 ご指摘の「わざわざ立ち寄る強い目的性をもつコンテンツ」や「徒歩で回遊できる環境整備」はまさに重要な視点であると考えています。 駅周辺の魅力化に向けた具体的な事業を検討していく中で、いただいたご意見も参考にしながら、宿泊施設や商業エリア等と連携した、魅力ある拠点づくりを進めていきます。

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
6	20 ページ 基本施策 2・3	来訪者の回遊性を高めるために、現状の車移動を前提としたまちづくりではなく、町内宿泊施設や主要施設を結ぶ公共交通（バス）や、シェアサイクル・電動キックボード等の観光客が手軽に利用できるモビリティの導入が必要であると思います。また、ビジネス客の足となるセミコン方面とのアクセス改善についても検討していただきたいです。	来訪者の回遊性を高めるための二次交通の充実につきましては、本ビジョン案の「基本施策 2」等に記載のとおり、宿泊施設と飲食店街等を結ぶ交通利便性の向上として位置付けています。 モビリティの導入やビジネス客向けのアクセス改善などの各種取組を展開していく中で、いただいたご意見を参考にし、利用ニーズや採算性等も踏まえ、持続可能な交通モデルの構築に向けた取組の具体化を進めていきます。
7	20 ページ 基本施策 4	現状も運行している肥後大津駅を起点にした阿蘇方面への観光電車の利用を促進する施策も必要かと思います。「広域観光拠点」としての機能を考えたときには、まず第一に阿蘇方面へのアクセスを重視・アピールすべきです。根強い電車ファンのニーズ等も含めて活用できるのではないのでしょうか。	本町を阿蘇地域等を含む広域観光圏の滞在・周遊の起点として位置付けることは、本ビジョン案の「基本施策 4」でも掲げており、ご指摘のとおり、阿蘇方面へのアクセスは大変重要な強みであると捉えています。 広域観光の拠点機能を高める具体的な方策を検討する過程において、いただいたご意見を参考にし、阿蘇方面への観光列車等も本町の魅力的な観光資源の一つとして位置付け、肥後大津駅も含めた魅力の情報発信を進めていきます。
8	21 ページ 基本施策 5	スポーツ目的の客が利用する具体的な施設として、大津町運動公園（スポーツの森）の宿泊に繋がる利用者促進についても、施策を考えていただきたいです。	本ビジョン案の「3.3 大津町観光の現状分析」に掲載のとおり、大津町運動公園や総合体育館などの充実したスポーツ関連施設は、目的を持って訪れる方を惹きつける本町の大きな強みです。また、「基本施策 5」においても、こうした需要を確実に取り込んでいく方針を示しています。 スポーツやモビリティを通じた滞在拠点化の取組を進める中で、いただいたご意見も参考にさせていただき、これらの施設を活用した宿泊促進や町内消費につながる施策について、関係団体と連携しながら推進していきます。

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
9	全体	大津町観光ビジョン（案）を読んで感じたこと 私は大津町に移り住んで10年になります。 以前は仕事で全国各地を訪れ、その土地ならではの魅力や地域づくりを取材する機会が数多くありました。 その経験から感じるのは、地域にはそれぞれ違った「強み」があり、成功している地域ほど、自分たちの強みを正しく理解しているということです。 今回、大津町観光ビジョン（案）を読ませていただき、「現代の宿場町」という考え方には大いに共感しました。 大津町は、阿蘇のような絶景を持つ町ではありません。熊本市のような繁華街がある町でもありません。しかし、熊本空港に近く、阿蘇への玄関口でもあり、近年はTSMCをはじめとする半導体関連企業の進出により、多くの人が宿泊する町へと変化しています。私は、この「多くの人が泊まる」という現状こそが、大津町最大の強みだと思っています。ただ、その宿泊客の多くは「大津町へ来たいから来ている人」ではありません。 仕事やスポーツ大会、合宿、空港利用など、それぞれ別の目的があり、その結果として大津町に宿泊しています。 だからこそ、観光地づくりを考える時には、「新たに人を呼ぶこと」よりも、「すでに大津町に来ている人に、もう少し町で過ごしてもらうにはどうすればよいか」という視点が大切ではないでしょうか。 観光ビジョンでは宿泊者数の増加やスポーツ大会・合宿の充実などが目標として掲げられています。しかし、大津町はすでに全国でも有数のスポーツ合宿地となっています。もちろんスポーツをさらに振興することは大切ですが、大会数や合宿数を増やすことだけが地域活性化ではありません。 例えば、試合を終えた選手や保護者が町内で夕食を食べる。宿泊したビジネス客が熊本らしい食事を	本町における多数の宿泊需要は本町最大の強みであり、ご指摘のとおり「新たに人を呼ぶことよりも、既に訪れている方に町で過ごしていただく」という視点は、本ビジョン案の「4.1 ビジョンと達成指標」における「通過点から目的地へ、そして立ち寄られる町へ」の考え方とまさに軌を一にするものです。 また、ビジネス客やスポーツ関係者、外国人技術者など、多様な目的で滞在される方々の「滞在中の時間」を豊かにすることが本町らしい観光振興であるという見解や、既存の飲食店が抱える課題を踏まえたスモールスタートによる「食の交流拠点」のご提案など、本町の実情に即したご意見として受け止めております。 今後、これらの滞在満足度を向上させるための新たな仕組みづくり等の具体的施策を検討・実施していく中で、いただいた貴重なご意見を参考にさせていただき、「熊本に泊まるなら大津町」と選ばれる、居心地の良い「現代の宿場町」の実現を皆様と共に目指していきます。

	楽しめる。外国から来られた技術者が休日に町を少し歩いてみようと思える。こうした「滞在中の時間」を豊かにすることが、大津町らしい観光ではないかと思います。 一方で、既存の飲食店へ過度な期待をすることには慎重であるべきです。町内の飲食店は少人数で営業されているところも多く、人手不足の中で日々営業されています。宿泊客が増えたからといって、営業時間を延ばしたり席数を増やしたりすることを期待するのは、現場の実情を考えると簡単ではありません。 だからこそ、新しい仕組みが必要です。私は、ホテルが集積する国道 325 号周辺などに、宿泊者が気軽に利用できる「食の交流拠点」を検討してみてもいいかと思います。イメージとして近いのは、高知市のひろめ市場です。もちろん、大津町と高知市では立地も観光客の流れも違いますので、そのまま真似をすることはできません。 だからこそ、最初から大規模な施設を整備するのではなく、期間限定の社会実験や小規模な施設から始め、利用状況を見ながら段階的に育てていく方法が現実的だと思います。 また、現在の大津町では交通渋滞も大きな課題です。 今後の施策は、新たな車を呼び込む観光ではなく、すでに町に滞在している人たちの消費を町内へ循環させることを基本に考えるべきではないでしょうか。 私は、大津町は無理に「観光地」を目指す必要はないと思っています。それよりも、「熊本で一番快適な滞在拠点」「また泊まりたいと思われる町」を目指す方が、大津町らしい魅力につながると感じています。大津町には、他の町にはない宿泊需要があります。 その強みを生かしながら、「現代の宿場町」という理念を、大津町らしい形で育てていかれることを期待しています。	
--	--	--

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
10	全体	大津町観光ビジョンの「通り過ぎる町から、回遊し、また訪れたくなる町」という将来像には、強く賛同いたします。一方で、本ビジョンが町民や事業者に広く理解され、「自分たちも一緒に取り組もう」という機運につながるためには、計画書そのものが「分かりやすく、共感でき、行動につながる内容」であることが重要だと考えます。	本ビジョンの将来像につきまして、深いご理解とご賛同をいただき深く感謝申し上げます。ご指摘のとおり、観光による地域振興を推進していくためには、町民や事業者の皆様にはビジョンの目指す姿を分かりやすくお伝えし、「自分たちも一緒に取り組もう」という機運を高めていくことが極めて重要であると認識しております。 本ビジョンが皆様にとって親しみやすく、共感と主体的な行動に繋がるものとなるよう、分かりやすい周知・広報に努めてまいります。
11	全体	住民目線で伝わる文章・構成への見直し 現在の案は行政計画としては整理されていますが、行政特有の表現が多く、一般の町民や事業者にとっては内容が伝わりにくい印象があります。「なぜ今このビジョンが必要なのか」「町は何を目指しているのか」「自分たちには何ができるのか」が自然に理解できるよう、住民目線の言葉や検討していく具体的な事業イメージ、図表、写真、イラストなども活用しながら親しみやすい計画書となるよう改善をお願いできればと思います。	ご意見を踏まえ、町民の皆様や事業者の皆様には本ビジョンの趣旨や目指す姿がより直感的に伝わるよう、概要版を作成してまいります。なお、計画書本編につきましても、引き続き分かりやすい情報発信に努めてまいります。
12	全体	現状と課題を数字で示し、危機感と可能性を共有すること 現状分析では、できる限り客観的なデータや数値を示していただきたいと思います。例えば、宿泊客のうち町内で飲食や買い物をする割合、通過型観光による経済効果の取りこぼし、観光消費額や滞在時間・町内周遊率やリピーター率などを示すことで、「何が課題なのか」「改善するとどのくらい地域経済に効果があるのか」が分かりやすくなり、施策への理解と納得感が向上します。町民や事業者が同じ課題意識を持つためにも、数字に基づいた説明の充実に希望します。	課題意識やポテンシャルを町民や事業者の皆様と共有し、施策への理解と納得感を深めるため客観的なデータや数値を示すことの重要性につきましては、ご指摘のとおりであると認識しております。 本ビジョン案の第3章 3.1「2 大津町観光の課題点」におきまして、立寄りや宿泊が消費行動に連動していない課題を「消費の取りこぼし」とし、通過客や宿泊客の滞在が経済波及効果をもたらすポテンシャルとなる旨の記述を整理・追記いたしました。 また、滞在時間や周遊率、消費動向などの客観的なデータにつきましても、今後は調査手法やデータ収集のあり方を検討し、可能な限り具体的な数値に基づいて課題や施策の効果を分かりやすく可視化・共有できるよう努めてまいります。

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
13	全体	代替案の活用について 「町民に伝わる計画書」をテーマに、現状分析や構成、表現方法を見直した「観光ビジョン参考資料(通常版)」と、さらに全体像を直感的に把握できるよう簡潔にまとめた「同(概要版)」の2種類を別紙として作成しました。この資料は、これまで担当課の皆様が苦心して作成されてきたご努力や現行案を否定するものでは決してなく、より伝わりやすく、実効性の高い計画書とするための一つの提案です。行政計画としての詳細なデータや構成の確認には「通常版」を、町民(学生含む)や事業者の皆様への分かりやすい周知・浸透には「概要版」を、といったように、目的に応じて参考資料としてご活用いただき、今後の計画書のブラッシュアップにつなげていただければ幸いです。	観光ビジョンの策定にあたり、「町民に伝わる計画書」という視点から、現状分析や構成等をご検討いただき、丁寧な参考資料(通常版・概要版)をご作成・ご提案いただきましたことに深く感謝申し上げます。 行政計画としての精度を高める視点や、町民や事業者、学生の皆様へ分かりやすく浸透させていくための工夫など、いただいた資料には大変貴重な示唆が含まれていると受け止めております。 ご提出いただいた資料につきましては、今後の具体的な施策の推進や、町民・事業者の皆様への周知・啓発を図る際の大切な参考として活用させていただきます。 今後とも、伝わりやすく実効性の高い観光振興に向け、ご協力いただきますようお願いいたします。
14	P. 21 (第6章 6.1)	実行力を担保する推進体制(DMO化)の明記 計画を確実に実行し成果を上げるためには、KPIマネジメントやマーケティングを実務として担う具体的な「受け皿」が不可欠です。本ビジョンにおいて、観光協会がその役割を担う「DMO(観光地域づくり法人)」として組織強化を図っていく方針を明確に位置付けていただきたいと考えます。	本町には、観光協会のほか、地域づくり団体や商工会、文化・スポーツ関係団体、事業者など、多種多様な主体が存在しており、それぞれが強みを生かして地域の活性化に取り組んでおられます。 本ビジョンを着実に推進し成果を上げていくためには、こうした多種多様な関係団体や事業者がそれぞれの役割を果たし、緊密に連携していく体制づくりが不可欠であると考えております。 そのため、本ビジョンにおきましては、特定の組織の指定に留めるのではなく、観光協会をはじめとする多種多様な関係団体が一体となって推進体制を構築する体系として位置付けておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

番号	該当箇所	寄せられたご意見	ご意見に対する町の考え方
15	P. 17 P. 21	現場の実態と客観データに基づく目標値（KPI）の再設定について 直近の宿泊稼働データ（TSMC 第一工場本格化時のピークからの落ち着き）や、現場の受け入れマンパワーの実態を踏まえると、現在の目標値（宿泊者数 54 万人、MICE 受入 100 件など）は過大です。目標が形骸化しないよう、宿泊者数を 45 万人程度に下方修正し、MICE 受入や教育旅行の件数も実現可能な数字へと再設定するとともに、ロードマップに「推進体制の確立とマンパワー確保」を明記することを求めます。	目標値である宿泊者数 54 万人につきましては、本町の上位計画である「第 7 次大津町振興総合計画」に掲げた数値を踏まえた目標設定となっております。なお、ご懸念の MICE 受入件数につきましては、本ビジョンで目標設定はございませんのでご了承ください。 一方、推進体制や人材確保の重要性につきましては、町全体の重要なテーマであることから、第 6 章 6.1「『現代の宿場町』の推進体制」におきまして、「組織力強化による『推進体制の確立』と必要な受入体制の充実に取り組む」旨の記述を追加・修正いたしました。
16	全体	観光による地域経済の活性化は、行政だけで実現できるものではありません。町民、事業者、各種団体が同じ方向を向き、それぞれの立場で行動して初めて成果につながります。そのためには、最初のスタートとなる観光ビジョン自体が、「読むための計画書」ではなく、「理解し、共感し、行動したくなる計画書」であることが重要かと思われます。行政としての正確な計画（通常版）と、町民への伝わりやすさ（概要版）を両立させることで、多くの町民や事業者が「自分も参加したい」「一緒に大津町を盛り上げたい」と感じられる観光ビジョンとなるよう期待しております。	観光による地域経済の活性化は、行政のみならず町民、事業者、各種団体が一体となって取り組むことで初めて実現できるものであり、ご意見のとおり共通の目的に向かって共に歩んでいく姿勢が極めて重要であると認識しております。 行政としての正確性と、町民・事業者等への伝わりやすさを両立させ、「一緒に大津町を盛り上げたい」と思っただけけるよう、いただいた貴重なご意見・ご提案をしっかりと踏まえ、皆様と共に魅力ある「現代の宿場町」の実現に向けた取組を推進してまいります。